登録番号：10194

CGRP 抗体薬の切り替えによる頭痛生活支障度の改善

Impact of CGRP Antibody Switching on Headache Disability

大島聡人[1,2]、日暮雅一[2]、浅田恭輔[2]、高瀬創[3]、山本哲哉[1]

1. 所属機関名(日本語): 横浜市立大学大学院医学研究科　脳神経外科学
2. 所属機関名(日本語): ほどがや脳神経外科クリニック
3. 所属機関名(日本語): マサチューセッツ総合病院 神経放射線科

【背景】CGRP 関連抗体薬の 3 製剤：ガルカネズマブ（G)、フレマネズマブ（F)、エレヌマブ（E）はいずれも同等の効果を持つとされているが、効果が不十分な場合に別の製剤に変更することで有効性が発揮されるかを調査した。

【方法】単施設の後方視的観察研究である。頭痛による生活支障度を HIT-6 スコアで評価した。2021 年 4 月以降、3 製剤を投与した患者は 634 名（G:271, F:242, E:121）であり、そのうち、薬効不十分のため別製剤に変更し、変更後の製剤を 6 回以上投与した患者 23 名（変更後の薬剤; G:7, F:16）を解析対象とした。ベースラインおよび各投与後の HIT-6 スコアを追跡し、基準値との比較には Wilcoxon の符号付き順位和検定を用い、両側検定で $p<0.05$ を有意とした。

【結果】平均年齢 40.8 歳、女性 21 例（91%)。EM 8 例（35%)、CM 15 例（65%)。変更直前の CGRP 製剤は G:2, F:5, E:16 であった。初回の CGRP 製剤導入直前の HIT-6 スコアは 66.6±3.8。変更する直前の HIT-6 スコアは 61.6±6.9 で、平均 5.0±6.5 の低下を示した。変更後の HIT-6 スコアは 1 回目から 6 回目までの全平均で 57.3±6.6 であり、変更直前からの平均変化量は 4.2±6.2 の低下であった。変更後はいずれの回も変更直前と比較して有意に低下していた（$p<0.05$)。EM/CM の群間および変更後の薬剤によって、変化量に有意差はなかった。

【考察】変更前の時点でも CGRP 導入前と比較して平均 5.0±6.5 の低下が認められたが、効果が不十分と判断され変更に至った。これは当院で 6 回目まで変更無しで CGRP 製剤を継続した場合の変化量（-9.0±7.1）と比較すると変化は小さかった。変更後は、CGRP 治療前から 9.2±6.2、変更直前と比較しても 4.2±6.2 低下していることから、初回の CGRP で効果が不十分であった場合に、別製剤に変更することで有効性が向上することが示唆された。